

異なり、提供したニュースの採否は言論機関の自由であるが、実際に報道されるとジャーナリズムの中立性・公共性の權威によって、大きな広報効果を発揮するという強味があるので、パブリシティは国鉄の広報活動の中で、きわめて大きな部分を占めている。

パブリシティの眼目は、情報提供の対象を厳選することであるが、国鉄の場合、記者クラブが本社に4、支社および鉄道管理局に30あり、主要報道機関のほとんど全部(新聞・ラジオ・テレビ)が所属しているため、これらに対する情報の提供が第一に重要なことになる。このほか、編集者、論説委員等のリストを整備し、たえず情報の提供を行なうと同時に、場合によっては、このようなグループと定期的に意見交換の会をもって、国鉄からの広報を行ない、またフィードバックのチャンスを増すことも重要なことである。記者クラブに対しては、ニュース価値のあると思われることを、それにふさわしいスタイルで提供することが必要で、現在責任ある専門家による説明(いわゆるレクチャー)、資料提供、お知らせという三つの方法の一つまたは二つを組み合わせた方式をとっている。また臨時、または定期的に総裁(3記者クラブを2回に分けて、それぞれ週1回)、常務理事(4記者クラブを2回に分けて、輪番制で、それぞれ月1回、ただし営業担当常務は別に経済部記者を対象に月1回)が記者会見を行なっている。また論説委員、文化人等のオピニオン・リーダーのグループとの会合には、総裁以下幹部が出席、国鉄の実状を率直にPRするよう努めている。

以上のような能動的な広報活動のほか、取材あつ旋、投書・陳情の処理、質問に対する回答等、いわば受動的な広報活動もパブリシティの重要な部分である。また、これらの活動のために、メールリストの整備、写真の備え置き、世論の調査(新聞の切抜き、その整理)が前提になるのはもちろんである。

(2) 出版物の発行

文字による広報は、速報性においては若干パブリシティに劣るが、パブリシティの裏付け、ないし、あとづけとして持続性のある点に特長があり、したがって、繰り返しPRを続ける必要のあるテーマと一般大衆向けのテーマに好適である。国鉄では、特にメールリストの整備に力を注ぎ、配布対象と編集内容の間に極力ずれがないように努めている。出版物名、発行部数、内容、配布は表のとおり。

(3) 映画の制作

PR映画を作成し、一般映画館・学校・教育委員会などで上映するほか、本社のPRコーナーにフィルム・ライブラリーを設け、そこから随時貸出しをしている。フィルム・ライブラリーからの貸出しだけでも、年間約100万人以上の観客を動員している。

(4) 展示、職場公開

展示や職場公開による広報活動が、明確なPR意図の下に行なわれるようになったのは比較的新しく、昭和38・1に本社にPRコーナーができたことと、昭和39・4に関東支社がPRモデルコースを作ったことをもって、一応その始まりとする。参加人員に限りがあるうらみがあるが、[眼で見る国鉄]という形の広報が可能で、印象が鮮明であり、地域社会の理解と協力をうるのに適している。PRコーナーは広報展示、応接、PR映画の貸出しなどを行なっているが、開設以来現在(昭和40・7)まで延べ35万人(主として丸ノ内族)が入場し、PRコースは、いろいろな職場を見学するコースであるが、25回開かれ延べ443人が参加している。

PR コーナー貸出し映画

分類	題 名	完成年	昭和 映写 時間	種 別 白・黒カラーの別
一	1 青い路線	32	20	カラー
	2 明日の鉄道	34	25	カラーワイド※
	3 特急あさかぜ	"	15	カラーワイド
	4 こだま号高速試験	"	25	カラー ※
	5 日本の交通	"	19	白 黒
	6 海を渡る鉄道	"	20	"
	7 伸びゆく鉄道	35	25	カラーワイド※
	8 ローカル線	"	"	カラー
	9 日本の動脈	"	20	カラーワイド※
	10 青函連絡船	"	33	カラー
	11 ディーゼル特急	"	18	" ※
	12 マスコットのねがい	36	25	" ※
	13 雪にいでむ	"	30	" ※
	14 貨物駅	"	15	白 黒
	15 雪とたたかう鉄道	"	14	"
	16 新しい鉄道	37	15	"
	17 ラッシュ	38	25	カラー ※
	18 ある機関助手	"	37	" ※
	19 豪雪とのたたかい	"	40	白 黒
	20 現代の車両	"	"	カラーワイド
	21 駅	39	26	カラー ※
	22 躍進(東北本線複線 電化工事記録)	"	35	"
般	23 新しい信号	"	30	"
	24 北陸トンネル 第1部	35	34	"
	25 " 第2部	37	"	"
	26 東海道新幹線 第1部	36	20	カラーワイド※
	27 " 第2部	38	30	" ※
	28 " 総集編	39	45	" ※
	29 " (改訂版)	"	49	" ※
北 海 道	30 北海道	36	30	カラーワイド
	31 ひがし北海道	"	"	"
	32 美しき北海道	37	35	"
	33 乳と蜜の流れる郷(緑の季節)	38	26	"
	34 " (白の季節)	"	20	"
	35 楽しい北海道	39	20	"
	36 みなみ北海道	"	30	カラー
観 東 北	37 樹木の蔵王	33	20	"
	38 東北周遊の旅 第1部	37	33	"
	39 " 第2部	"	36	"
	40 十和田の四季をたずねて	"	41	"
	41 光と雲と(みなみ東北の旅)	38	35	"
	42 奥会津(檜枝岐から尾瀬へ)	39	23	"
関 東 中 部	43 秋の信濃路	35	40	"
	44 春の信濃路	36	29	"
	45 信濃の春スキー	"	26	"
	46 木曽路	38	25	"
	47 確水峠	"	23	"
	48 榛名湖周遊の旅	"	20	"
	49 尾瀬	"	30	"
	50 日本水郷から成田へ	"	23	"
	51 周遊券の旅 北陸編	"	30	"
	52 白銀の乱舞	39	35	"
光 畿 東	53 加賀・能登	"	26	"
	54 紀勢線の全通	34	28	"
	55 周遊券の旅 南畿編	"	21	"
	56 奈良・京都を訪ねて (ひので号と共に)	36	60	"
	57 周遊券の旅 山陰編	"	33	"
	58 周遊券の旅 四国編	35	30	"
	59 四国 第1部	38	35	"
九 州	60 " 第2部	"	23	"
	61 九州風土記(秋から冬へ)	35	35	"
	62 " (春から夏へ)	36	50	"
	63 太陽とみどりの国 南東部編	38	30	カラーワイド
	64 " 北西部編	39	"	"
	ヨーロッパ編	"	"	"
	65 " ヨーロッパ鉄道の りある記 その1	38	30	カラー